

森本 達夫 博士 年譜・著作目録

〈年 譜〉

- 1947（昭和22）年10月4日 神戸市に生まれる
- 1967（昭和42）年3月 私立甲陽学院高等学校卒業
- 1968（昭和43）年4月 同志社大学文学部英文科入学
- 1973（昭和48）年3月 同志社大学文学部英文科卒業（文学士）
- 1973（昭和48）年4月 関西学院大学大学院文学研究科修士課程（仏文学専攻）進学
- 1975（昭和50）年3月 関西学院大学大学院文学研究科修士課程（仏文学専攻）卒業（文学修士）
- 1975（昭和50）年4月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程（仏文学専攻）進学
- 1976（昭和51）年9月末 関西学院大学大学院文学研究科博士課程（仏文学専攻）休学
- 1976（昭和51）年10月 フランス政府給費留学生としてパリ第三大学演劇研究所博士課程に留学
- 1978（昭和53）年4月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程（仏文学専攻）復学
- 1979（昭和54）年9月 関西学院大学経済学部非常勤講師（1997（平成9）年3月まで）
- 1980（昭和55）年3月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程（仏文学専攻）満期退学
- 1981（昭和56）年4月 近畿大学教養部専任講師
- 1983（昭和58）年1月 Doctorat de l'Université de Paris III (Etudes théâtrales) No 60 パリ第三大学博士号第60号取

- 得（演劇学）
- 1984（昭和59）年4月 近畿大学教養部助教授（1997年3月まで）
- 1997（平成9）年4月 関西学院大学商学部教授
- 1999（平成11）年10月～ 特別研究期間
- 2000（平成12）年3月
- 2000（平成12）年8月 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科修士課程教授（専任）（舞台言語特殊講義Mマル合）
- 2002（平成14）年8月 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科博士課程教授（専任）（Dマル合）
- 2002（平成14）年10月～ 学院留学 パリ第三大学演劇研究所（招聘研究者）
- 2003（平成15）年9月
- 2009（平成21）年4月～ 学院留学 パリ第三大学演劇研究所（招聘研究者）
- 6月
- 2013（平成25）年4月～ 特別研究期間
- 2014（平成26）年3月
- 2016（平成28）年3月 関西学院大学商学部定年退職

[所属学会]

- 日本フランス語フランス文学会 1975年から現在に至る
関西支部実行委員会委員1999年6月～2000年5月
関西支部実行委員会委員長2000年6月～2001年5月
日本フランス語フランス文学会編集委員（20世紀文学担当）2009年4月～2013年3月
- 日本演劇学会 1981年から現在に至る
- 関西学院大学言語コミュニケーション文化学会 2001年から現在に至る
学会運営委員長2010年4月～2011年3月

〈著作目録〉

— 著 書 —

- | | | |
|--|-----------------------------|----------------------------------|
| 《 <i>Fonctions du rire dans le théâtre français contemporain</i> 》 | Librairie A.-G Nizet, Paris | 4 ^e trimestre 1984 |
| 『ごっこ遊びが生む笑い—私の出会ったフランス喜劇』 | 駿河台出版社 | 2015年7月 |

— 共 著 —

- | | | |
|------------------------------|-----------|----------|
| 『初めて学ぶフランス』 第12章 「現代演劇と笑い」執筆 | 関西学院大学出版会 | 2004年10月 |
|------------------------------|-----------|----------|

— 共 編 著 —

- | | | |
|-------------------------------------|-----|---------|
| 教科書 森本達夫・沼田五十六・米谷魏洋編『エチュード—フランス語文法』 | 白水社 | 1992年3月 |
|-------------------------------------|-----|---------|

— 論文（テキストを含む） —

- | | | |
|---|---|----------|
| 〈le Comique chez André Roussin〉（仏文） （アンドレ・ルッサンの喜劇性） | 関西学院大学文学研究科（仏文学専攻）提出 修士論文 | 1975年1月 |
| 「André Roussin のコミックについて—初期作品 <i>la Petite Hutte</i> （『掘立小屋』）をめぐって」 | 「年報・フランス研究」第9号 関西学院大学 フランス文学研究室 | 1975年12月 |
| 〈le Comique chez Eugène Ionesco—sur <i>Macbette</i> 〉 （仏文） （ウジェーヌ・イヨネスコの喜劇性—『マクベット』について） | 「人文論究」第29巻第3号 関西学院大学 文学会 | 1980年1月 |
| 〈 <i>Fonctions du rire dans le théâtre français contemporain</i> 〉（仏文） （『現代フランス演劇における笑いの機能』） | Thèse de Doctorat de l'Université de Paris III (Etudes théâtrales) パリ第三大学博士論文 (演劇学) | 1983年1月 |

- 「ルッサンの遺作『子猫は死んだ』について」 「近畿大学教養部研究紀要」第20巻2号 近畿大学教養部 1988年12月
- 「ルネ・ド・オバルディア作『ジュヌージ』における笑い—第1幕第1場「広間の場」における言葉遊びの考察 —前—」 「近畿大学教養部研究紀要」第25巻1号 近畿大学教養部 1993年7月
- 「ルネ・ド・オバルディア作『ジュヌージ』における笑い—第1幕第1場「広間の場」における言葉遊びの考察 —後—」 「近畿大学教養部研究紀要」第25巻2号 近畿大学教養部 1993年12月
- 〈le Rire de René de Obaldia dans *Genousie*—Jeu avec la signification des mots dans l'acte 1, scène 1, 《scène du salon》—supplément en français〉 (仏文) 「近畿大学教養部研究紀要」第26巻2号 近畿大学教養部 1994年12月
- 〈le Rire de René de Obaldia dans *Monsieur Kleps et Rozalie*, naturel au bout de l'artificiel—théâtralité paradoxale de *Rozalie-Vénus électronique*〉 (仏文) 「近畿大学教養部研究紀要」第26巻3号 近畿大学教養部 1995年4月
- (ルネ・ド・オバルディア作『ジュヌージ』における笑い—第1幕第1場「広間の場」における言葉遊びの考察 —補遺—)
- (ルネ・ド・オバルディア作『クレップス博士とロザリー—』における笑い：人工による自然—ロザリー／エレクトロニック・ヴィーナスの逆説的演劇性)
- 〈Le Rire de René de Obaldia dans *la Baby-sitter*—Epanchement de l'Eternel dans un instant du Quotidien〉 (仏文) 「近畿大学教養部研究紀要」第27巻3号 近畿大学教養部 1996年3月
- (ルネ・ド・オバルディア作『ベビーシッター』について—日常の一瞬に顕現する永遠)
- 「オバルディアの笑いく母親役>の科白をめぐって —前—」 「年報・フランス研究」第30号 関西学院大学フランス文学研究室 1996年12月
- 「オバルディアの笑いく母親役>の科白をめぐって —後—」 「年報・フランス研究」第31号 関西学院大学フランス文学研究室 1997年12月
- 「ルネ・ド・オバルディアの笑い—『人間大砲の女芸人エルザ』または大尻の聖女」 『商学論究』第46巻第4号 関西学院大学商学研究会 1999年3月
- 「『ラップニング』におけるルネ・ド・オバルディアの舞台言語とその笑い—<意識>と<言葉>の戯れ」 『商学論究』第50巻第1・2号合併号 関西学院大学商学研究会 2002年12月
- 「『犬と狼の間』におけるルネ・ド・オバルディアの舞台言語とその笑い—<日常性とファンタジー>または<言葉と身体>」 『商学論究』第50巻第4号 関西学院大学商学研究会 2003年3月

- | | | |
|---|---|---------|
| 『彼女の美しい瞳のために』に見るオバルディアの世界—日常を題材にして造型されるサブライズとその笑い』 | 『商学論究』第57巻第2号 関西学院大学商学研究會 | 2009年9月 |
| <Essai sur <i>Elsa, la femme-canon</i> de René de Obaldia—l'in vraisemblable ou la réalité obaldienne> (仏文) (ルネ・ド・オバルディア作『人間大砲の女芸人エルザ』—本当らしくなさ またはオバルディアの生きる現実) | Humanities Review, vol. 17 2012 Kwansei Gakuin University | 2012年 |

—その他—

- | | | |
|--|------------------------------------|-----------------|
| 「オバルディアの戯曲におけるコミック」(学会発表) | 日本フランス語フランス文学会関西支部大会 於立命館大学 | 1979年12月 1日 |
| 「フランス現代演劇における笑いの機能」(学会特別発表) | 日本フランス語フランス文学会秋季大会 於大阪市立大学 | 1984年10月 20日 |
| 「極大から極小へ、そしてまた拡大へ—現代フランスの劇場と作品世界」(書評) | 「みくわんせい」Vol. IV. No.1 関西学院大学生協書評の会 | 1989年 |
| 「フランス古典劇『ル・シッド』とアメリカ映画『エル・シド』」(エッセー) | 「近畿大学視聴覚通信」第12号 | 1990年12月 |
| 「ボーマルシェ作『フィガロの結婚』とアメリカ映画『アマデウス』」(エッセー) | 「近畿大学視聴覚通信」第13号 | 1991年12月 |
| 「フランスの剣豪と日本の剣豪—ロスタン作『シラノ・ド・ベルジュラック』と山中貞雄作『丹下左膳』」(エッセー) | 「近畿大学視聴覚通信」第14号 | 1992年12月 |
| 「二つの叙事詩—ピーター・ブルックの『マハーバーラタ』と梅原猛の『ギルガメシュ』」(エッセー) | 「近畿大学視聴覚通信」第15号 | 1993年12月 |
| 「喜劇にされた悲劇—イヨネスコ作『マクベット』について」(市民講座講演) | 於姫路市民劇場 | 1976年6月 21日 |
| 「マリヴォー作『愛と偶然の戯れ』の世界における言葉のステイタス」(市民講座講演) | CAF「日仏文化講座」於神戸国際会館 | 2010年11月 9日 |